

# 土曜 ライフ・楽しむ

## 大雪の生活 時間と心に余裕持って

# わたしの色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利



みれの雪たるまを作った記憶  
しかない私ですが、北国の冬  
は42回目になりました。



びっくり仰天です。そそり立つ雪の壁、深いわだち、そろばん道路と呼ぶのはそろばんに申し訳ないほど荒れた路面、すれ違えない狭さ、想像を超えていました。先日車で友人を訪ね、札幌市内某所のわき道に入った時のことです。私の住むところは元々市内でも有数の多雪地帯で今冬も大雪ですが、その比ではありませんでした。

今月上旬の記録的な大雪で、JRの札幌発着列車全運休を始め、日常生活にも様々な被害や不具合が出ています。排雪場は満杯、ごみ収集にも影響があり、屋根からの落雪や雪捨て場の確保など身近なトラブルも増えたそうです。「長年住んでいるが初めて近所の人もめた」と言う人もいました。

煙突が壊れたという友人もいるし、一人暮らしの高齢者が雪かきに苦労する姿を見かけるのもつらいものです。何とか融通し合い、助け合って乗り切りたいものです。



近年、札幌市は「生活道路の新たな除雪方法」を試行しているようですが、今年に限っては想定以上の大雪ということでしょうか。この経験を今後にぜひ生かしていただくよう期待してやみません。

こんな冬は車の運転は控えるべきでしょうが、車通勤が日常です。交差点の見通しは

悪く、路面が悪い上、車道を歩く人もいるので細心以上の注意をはらい、譲り合う心を持って一層の安全運転に心がけます。

どこで渋滞するかわからないため、約束の時間に幅を持たせる交渉もしています。

「時間にゆとりを持つ」ことが最も大切なことかもしれない。それでも帰宅のたびに肩こりを覚える毎日です。

ダンブカーの隊列は怖いし、迂回を求められて困ることもありますが、寒い中、真夜中に除排雪に従事する皆さんには感謝しかありません。雪がほとんど降らない大阪で生まれ、子どもの頃は土ま

実は雪に憧れたことも北海道に来た理由の一つで、学生時代には雪かき応援団と称して近所の高齢者のいる家へ出向き喜ばれたことがあるほどです。雪や寒さとうまく付き合い、冬を少しでも快適に乗り切りたい、雪を嫌いになりにたくないと思っています。

しかし運転や雪かきに限らず、雪道での転倒も怖く、手間のかかる水道の水抜きも苦手。もちろんいいこともありますが、北国の冬は本当に暮らしていくと痛感します。

春になったらきつとまたシラカバ花粉症に悩まされます。それでもこんなに雪解けが待ち遠しいのは初めてのことです。